

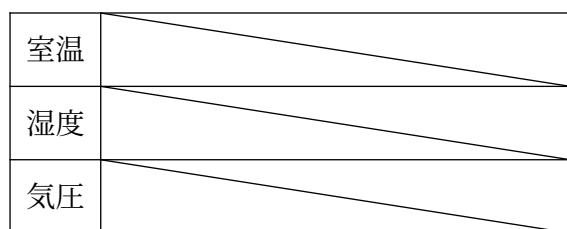
理工学基礎実験レポート

実験日	1875年 11月 19日 (火・(金)) ((午前)・午後)
実験題目	D-1 「表示系におけるヒューマンファクターズ」 D-1-2 VDT 作業における人間の操作特性に関する実験

学科	異世界生活科	クラス	S	学籍番号	19850325
報告者氏名	菜月 昂				

共同実験者		

レポート提出日	2046年 11月 25日 19時 2分
レポート再提出日	年 月 日 時 分



1. 目的

公開用に本文を削除.

2. 実験 B-1

公開用に本文を削除.

2.1. 実験 B-1-1

公開用に本文を削除.

2.1.1. 実験方法

公開用に本文を削除.

2.1.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 1: ターゲットのサイズとずれの距離の平均

画像サンプル

図 2: ターゲットのサイズと所要時間の平均

2.2. 実験 B-1-2

公開用に本文を削除.

2.2.1. 実験方法



画像サンプル

図 3: 純色の誘目性尺度値 (背景別)

神作博. “画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究”, 日本眼科学会, 1987, p.72.
より引用, 図は新規に作成した[1].



画像サンプル

図 4: 青色ターゲット



画像サンプル

図 5: 赤色ターゲット



画像サンプル

図 6: 黄色ターゲット

2.2.2. 実験結果及び考察

画像サンプル

図 7: ターゲットの色とそれの距離の平均

画像サンプル

図 8: ターゲットの色と所要時間の平均

3. 実験 B-2

公開用に本文を削除.

3.1. 実験 B-2-1

公開用に本文を削除.

3.1.1. 実験方法

公開用に本文を削除.

3.1.2. 実験結果及び考察

画像サンプル

図 9: キー配置と入力の正答率

画像サンプル

図 10: キー配置と入力時間の平均

3.2. 実験 B-2-2

公開用に本文を削除.

3.2.1. 実験方法



図 11: マウス用ターゲット

画像サンプル

図 12: タッチ用ターゲット

3.2.2. 実験結果及び考察

画像サンプル

図 13: キー配置と入力の正答率

画像サンプル

図 14: キー配置と入力時間の平均

4. 結論

まず B-1 では、サイズ拡大は一貫して時間短縮をもたらす一方で、中心からのずれは増える、という速度と精度のトレードオフが確認できた。

次に、B-1-2 では、視認性が律速段階になり、黄（高輝度・高コントラスト）が最速で安定して生出が出るのに対して、青が最遅・不安定であるという順序が出た。

B-2 では、配置だけではなく慣れの影響も大きいことが確認できた。

参考文献

- [1] 神作博、「画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究」，日本眼科学会雑誌，p. 72, 1987.